

令和八年度

入学試験問題

(前期)(二月二十七日)

愛知学泉短期大学

国語

時間 六〇分

注意事項

- 1 受験票を机右上に提示すること。
- 2 試験終了までは退場はできない。
- 3 この時間は一〇時から一一時までである。
- 4 試験開始・試験終了は、試験監督者の「始め」・「やめ」の合図による。
- 5 問題用紙・解答用紙が配付されても、「始め」の合図があるまでは見てはならない。
- 6 この問題用紙は、一〜五ページまでである。
- 7 解答は、すべて、**解答用紙**に鉛筆で正確に記入すること。
- 8 「始め」の合図とともに、まず、**解答用紙**に**受験番号**・**氏名**を記入すること。
- 9 質問があるときは、黙って手を挙げること。
- 10 トイレその他気分の悪くなった場合は、申し出ること。
- 11 試験終了の「やめ」の合図があったら、ただちに筆記をやめ、**解答用紙**の回収が終わるまで席を立たないこと。
- 12 問題用紙は、各自持ち帰ること。

国語

(二月二十七日)

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

脳の障害で、文字が読めなくなってしまう「失読症^{しつどくしやう}」という症状が起きることがありますが、洋の東西を問わず、文字を持っている民族なら世界のどこの人でも発症するこの症状で、日本人にだけ奇妙なことが起きるというのです。

世界一般に、失読が起こるのは角回の障害とされている。角回というのは、角張った回転という意味で、回転というのは脳のシワ、溝と溝との間の平らな部分である。大脳皮質には、解剖学的にそういう名前をつけられた場所がある。その障害で、^(一)万国共通に失読が生じる。ただし日本人では、角回の障害で生じるのは、カナ失読だけである。われわれは漢字を、それとは別な大脳皮質の部位で読むらしい。

(養老孟司『考えるヒト』)

日本人にだけ、仮名失読と漢字失読という二種類の失読症が生じる。これは日本語に漢字と仮名があり、それを読むときに日本人は脳のそれぞれ別の二カ所の部位を使っていることを意味しています。一カ所は漢字を読むための部位、もう一カ所は仮名を読むための部位です。言い換えれば、日本人の脳には、文字を読む、つまり言葉にするときに、世界の他の地域の人が使っていない場所があるわけです。

これは^(A)日本人にだけ見られる特殊な現象だというのですが、確かに西欧型の言語ではこういうことは決して起きないでしょう。一種類の文字しかない西欧では、一種類の失読症しか起こりえないからです。

文化人類学者であり、言葉についても深い考察のある川田順造^{かわただじゆんぞう}さんの『コトバ・言葉・ことば』という著書の中に伝言ゲームについての興味深い記述があります。伝言ゲームというのは、ご存じのように何人かが並び、先頭から順番に出題された言葉を **B** 打ちしていき、最後の人が口にした言葉が、出題された言葉にどれだけ近いかを ^(三)キソウゲームです。

川田さんは日本語は文字が ^(三)カイザイしているために純粹に音だけで聞き取るのではなく、音から文字を想像して聞き取ろうとすることでどんどんと伝言内容が変化していくことを指摘しています。たとえば、「山田さんが手に荷物を下げています」という言葉が、日本語では、数人を ^(四)経るうちに「山田さんが勝手にものを叫んでいます」と大きく変化します。ところが、英語で伝言ゲームにしても、「Mr. Yamada has a load in the hand.」は、せいぜい「Mr. Yamada」が「Mr. Imada」になるくらいのもようです。

あるいは、こういう話も耳にしたことがあります。フランスでフランス人と日本人が伝言ゲームをしたときに、フランス人が「日本人はずるい」と言うので、その理由を訊ねると、「日本人は前の人の伝言を聞きながら、しきりに指を動かしている。何か合図を送っているに違いない」と答えたというのです。日本人が言葉を「文字で聞き」「文字で話している」という好例ですが、声ではなく「^(C)文字で聞く」という日本(語)人の態度がフランス(語)人には理解できなかったようです。

もう一つ、日本語の発声は、英語や中国語に比べてかなり平板だという特徴があります。英語や中国語ならアクセントがはっきりしていて、発音上、強い^(五)オウトツがありますが、日本語の場合は平板で「しのび声のよう」と中国人は聞くようです。

たとえば 日本語の母音 というのは、いまは五つしかありませんが、これも五母音しかない平仮名のせいです。つまり文字が発音を逆に規定したのです。奈良から平安初期の日本語は八母音であつたと言われるように、平仮名がつけられる以前の時代の言葉が、いまのように平板だったとは考えられません。

(石川九楊「縦に書け!」より)

(注) 問題作成の都合上、作問者が本文を一部省略している。

問一 傍線部(一)～(五)のカタカナは漢字で書き、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問二 傍線部(A)「日本人にだけ見られる特殊な現象だ」について、

(ア) どのような現象かが書かれている箇所を本文より二十五字以内で抜き出し、はじめの五字を答えなさい。

(イ) なぜ、そのような現象が起きるのかを本文の言葉を用いて答えなさい。

問三 空欄 B に入る言葉を漢字一字で答えなさい。

問四 傍線部(C)「文字で聞く」ことについて説明している箇所を本文より二十字で抜き出し、はじめの五字を答えなさい。

問五 傍線部(D)「日本語の母音というのは、いまは五つしかありません」とあるが、いまの日本語の母音を答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

思考の精度をより高めるために、ぜひ習慣づけていただきたいのが、「メモをとること」なのです。これから、自分の価値観や経験、あるいはそれらに基づいて考えたことをマメにメモする習慣をつけていきましよう。^(一)何らかの形で、読んだこと、考えたことの^(二)痕跡を残しておくということです。

価値観も経験も自分の内側にあるものだから、^(三)強いて書き残さなくてもわかると言うかもしれません、それは違います。むしろ自分の内側にあるものだからこそ、マメに言語化し、自分でフィードバックするというプロセスがないと、思考的格闘の蓄積のない、感情の動物になってしまいます。

早い話が、言語化の習慣がないと思考力が衰えるというわけです。いずれは自分の思考を他者に

伝えるトレーニングとして、まとまった文章をブログやSNSで発表するのもいいと思います。が、さしあたっては、自分のためにとるメモでかまいません。そして自分のためにとるメモなので、起承転結や論理性など気にせず、とにかく「そのとき考えたこと」を書き残しておくことが重要です。その場合、メモを残すときに必要なアクションのハードルは、なるべく低いに越したことはありません。 A、メモアプリを起動して、書くようにしているテーマのフォルダを開いて、新規ファイルを作成して……、といった複数の手順を踏むとなると、メモをとるという行為が 大 仰なものになります。

すると、おそらく多くの場合、「これは書き残すべきかどうか」という判断が加わるようになります。五「この手順をすべて踏んでまで書き残すべきかどうか」と、余計な 六 逡巡をしてしまう。こうして本当はのちのち効いてくるかもしれない、一見、些細な思考の痕跡がこぼれ落ち、忘れ去られてしまうのは避けたいのです。

使い勝手の感じ方は人それぞれですが、私としては、 七 流行り廃りがあるツールはおすすめしません。デジタルツールならパソコンのメモアプリ、アナログツールならメモ帳など、ごくオーソドックスなツールを使って、かつ「すぐに、なんでも書ける」という状況をつくるのが最大のポイントです。

ちなみに、私はパソコンのメモアプリと紙のメモ帳の併用です。八 ヨウトや目的ごとには使い分けていません。そのときに使いやすい方を使って、どんどん書いています。ですから、私のメモアプリとメモ帳は、仕事のアイデアから、時事問題について考えたこと、はたまた買物のメモまで、実に雑多です。

もし、 九 この手法だとあまりに乱雑すぎて混乱しそうだったら、「週に一度」などと決めて定期的に見返し、要・不要を分けるなど、整理することも習慣づけるといいでしょう。書きっぱなしでも、後で検索して見返したり出来れば、それで十分です。

(斉藤淳「アメリカの大学生が学んでいる本物の教養」より)

(注) 問題作成の都合上、作問者が本文を一部省略している。

問一 傍線部(一)「何らかの形で」はどの言葉にかかるか、次の ア から選び、記号で答えなさい。

ア 読んだこと イ 考えたこと ウ 残しておく エ いうこと

問二 傍線部(二)「痕跡」、(三)「強いて」、(七)「流行り廃り」の読み方をひらがなで答えなさい。

問三 傍線部(八)「ヨウト」を漢字に直しなさい。

問四 傍線部(四)「大仰」、(六)「逡巡」の意味は何か、簡潔に言い換えなさい。

問五 空欄 A に入る適切な言葉を次の ア から選び、記号で答えなさい。

ア もしかして イ たとえば ウ まるで エ なんとでも

問六 左の文章が、傍線部(五)と同じ意味なら「○」、異なるなら「×」、どちらとも言えないなら「△」と答えなさい。

「この手順をすべて踏んでまで書き残すにはどうしたらよいか」

問七 傍線部(九)「この手法」とは、どのような手法か？二五以上三〇字以内で説明しなさい。

問八 文章記述のフレームワークの一つである「PREP法」に関する【例題】を参考にして、【本題】に答えなさい。

【例題】問い

私のアルバイト先に、仕事ができる先輩がいます。ミスなくテキパキ動き、忙しくても笑顔で接してくれます。どうしたら先輩みたいになれるのかと聞いたたら、「健康第一」という返事でした。さて、あなたには目標とする人がいますか？

【例題】解答例

結論P (point)

私はコンビニでアルバイトをしています。私にも憧れの先輩がアルバイト先にいます。年齢は一つ下ですが、私より2か月早く働き始めています。

理由R (reason)

その人も、とんでもないほど仕事ができます。私などレジの仕事だけで緊張してしまうのに、その人はオールマイティなのです。

具体例E (example)

コンビニは商品を売るだけでなく、宅配とか公共料金の振り込みの対応とか様々な業務があります。先輩は何でもこなす上に、チェーン店内の総菜パンレシピコンテストで第1位になりました。近々商品化されるそうです。

結論(言い換え) P (point)

先輩は「専門性を身に付けて役割を果たすのは当たり前として、私の仕事が世の中に貢献できていたらうれしい」と言っています。

【本題】

本文では、思考の精度をより高めるために「メモをとること」を推奨している。さて、思考精度を高めるための別の方法として、どのようなことが有効か、「PREP法」を用いて答えなさい。

【三】「アブダクション推論」に関する説明及び【例題】を読み、以下の【本題】に答えなさい。

※アブダクション推論（逆行推論・仮説推論）

観察された事実から最も合理的な仮説を導き出す論理的思考法。不完全な情報から最も可能性の高い説明を見つけ出すことを目的としている。答えが一つに定まらない課題を解決する際、検証する前に仮説を立てること。（生成AIの説明による）

【例題】

事実

畑の跡地に井戸を掘っていた。地下50cmのところから、貝殻が複数出てきた。調べてみると、それらは海の貝であった。

仮説

この場所は太古、海だったかも知れない。

検証方法

- ① 近辺の同年代の地層を、複数箇所掘ってみる。
- ② 貝の出た地層の他のサンプルを調べる。
- ③ 貝そのものの、年代測定をする。

↓ 結果として、仮説が的外れでも構わない。もしかしたら、祖父が畑の土壌改良をするために貝殻を埋めたのかも知れない。ただし、思考の活性化のために、仮説を立てることが第一歩となる。

【本題】

問一 「日本人は自らの意見をもって、発信することが苦手」という傾向がある。さて、なぜそうなったのか、可能性の高いと思われる仮説を三つ立てなさい。検証方法は解答不要。

問二 あなた自身は自らの意見をもって、発信することが苦手か、得意か、いずれとも言えないか、立場を明確にしないさい（課題解決に取り組む姿勢及び表現力を測る問題であり、採点及び合否判定とは無関係）。さらに、当事者意識をもって考え、今後どのような方策によって発信力を磨くのか、自らの課題を解決する策を一三五字以上一五〇字以内で記述しなさい。

